

# 2023 年度学校評価結果と 2024 年度重点目標

2024 年 3 月

恵泉幼稚園

## 1. 本園の教育理念・教育目標・教育方針

### 【教育理念】

恵泉幼稚園は、高橋誠一が、「神は愛である」というキリスト教の教えに立ち、1935 年（昭和 10 年）に設立した幼稚園です。幼い時に、自分が愛され、守られていることを感じることができ、幼児の豊かな心、健康な体、考える力を育みます。生きる力の基礎を培い、子どもとともに育ちあう園であり続けます。

### 【教育方針】

- ・意欲のある子ども・・・一人ひとりの個性を生かし、興味・関心に合った環境を作る
- ・思いやりのある子ども・・・ありのままの自分が受け入れられていることを知り、遊びを中心とした生活の中で思いやる心を育てていく
- ・感性豊かな子ども・・・自然豊かな広い園庭で、季節に触れ、美しさや尊さを感じる
- ・感謝できる子ども・・・祈りを通して、神様に愛され、守られ、たくさんの恵みを与えられていることに感謝する心を育てる

## 2. 2023 年度の振り返りと 2024 年度重点的に取り組む目標・計画

### 【2023 年度、重点的に取り組む目標】の振り返り

#### ① 自己肯定感の基礎を作る

- － 一人ひとりの子どもたちが自分らしさを発揮できる居心地の良い場所を見つける －

子どもは日々成長しています。昨日まで出来なかったことが今日急に出来るようになり周囲をおどろかせることがあります。しかし、何でも急に出来るようになることが本当にあるのでしょうか。昨日まで出来なかったとしてもそれは外に表れなかっただけで、内面では脈々と何か変化しているのです。その間、子どもの可能性を信じて大人がどれだけ忍耐強く待てるかということが大事です。日々のちょっとした変化に気づき、それがどんなに尊いことか大人が認め、褒めることで子どもたちは失敗をも力に変えることができます。そして最後までやり遂げたという達成感が自己肯定感を形成していきます。

保育では今、アタッチメントという言葉をしぼしば使いますが、もとは付着、吸着という意味ですが、傾倒、愛着、愛慕、寵愛を意味することもあります。スヌーピーでお馴染みのライナスという男の子は天才的な発言をすることがありますが、いつも毛布を手放しません。安心できる人、物、場所などによって心が満たされているとき、子どもたちは自分らしさを発揮できるようになります。今年度、一人ひとりの子どもが自らアタッチメントを探し自分の居場所を構築できるよう、保育者は様々な場面で子どもの反応を見逃さず、自分の居場所づくりを手伝うことに力を注ぎました。子どもたちも自ら居心地の良い場所を、一人で、あるいは友だちと見つけながら集団活動とのバランスをとっていました。やがて学校、社会に出ていく子どもたちが、自分の力で居場所を作りそれぞれの場所で輝いて欲しい。その願いを叶える基礎作りは幼稚園にあると確信しております。

## ② 想像力を豊かに育む

— 子どもの声に耳を傾け、発想の豊かさを伸ばしていく —

子どもたちにとって幼稚園で先生や友だちと過ごす時間は、自分育ての時間です。技術や知識の習得はそれが出来るようになれば終了です。しかし自分で興味を持って、もっと知りたい、もっとやってみたい、と思う時が自分育てのスタートです。技術も知識も無限に広がり豊かな感性に繋がります。今年度、保育者は想像力へのスイッチをたくさん用意しました。そのスイッチを子どもが自らオンした時、想像力の世界への歩みは始まります。子どもたちの興味は一人ひとり違います。同じ時間を共有していても得るものは異なります。今年度、子どもたちは、様々な場面で大人の想像力をはるかに超えたところで想像力を発揮しました。保育者は子どもの潜在能力を信じ、つねに謙虚に子どもたちの発想に向かい合い、共に想像力を育てていくという姿勢をこれからも忘れずに寄り添ってまいります。

### 【2024年度、重点的に取り組む目標】

#### ① キリスト教保育の探究

— だれもが愛されている存在であることを実感する —

#### ② かけがえのない幼児期における非認知能力の育成

— やりたいことが実践できる場を増やす —

### 【2024年度、重点的に取り組む目標】の設定について

#### ① キリスト教保育の探究

— だれもが愛されている存在であることを実感する —

毎月覚える聖書の御言葉、讃美歌、お祈り、礼拝などで出会う言葉を子どもたちに分かりやすく話し、その言葉を大事にしながら行動できるような機会を提供していきたいと考えています。私たちは、何かが出来るから優れているのではありません。一人ひとりそれぞれ違った賜物を神さまからいただいています。誰でもそれぞれの役割があることを実感し、神さまから愛されるために生まれてきたこと、何があっても大丈夫という信念のもとに、キリスト教保育をさらに探究し、恵泉幼稚園の存在意義を、さらにおうちの方と共有し合ってまいります。

#### ② かけがえのない幼児期における非認知能力の育成

— やりたいことが実践できる場を増やす —

「非認知能力」という言葉を耳にされた方も多いと思います。非認知能力とは、意欲・協調性・忍耐力・計画性・自制心・創造力・コミュニケーション能力といった測定できない個人の特性による能力全般を指します。いわゆる学力（認知能力）とは対照的に用いられている言葉です。非認知能力の高い人は粘り強く、感情のコントロールができ、将来希望の職種で成功し、社会的に活躍する可能性が高いと言われています。非認知能力を身につけるには大切な時期があり、それが正に幼児期であると言われています。豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったりできるようになることが「学びに向かう力、人

間性等」を養うこととなります。恵泉幼稚園では創立以来、この分野を大切にしてきました。「遊び」を大事にする保育を通し、その過程の中で非認知能力を培ってまいりました。これからも保育者は、子どもたちの言動に注意し、子どもたちが真にやりたいことを見極め、必要なことを保育の中に取り入れていくことを目指します。

### 3. 学校評価結果の取組み

#### (1)

##### 《評価項目》

「おうちの方の学校評価」を実施し、評価項目別に採点を集計し、自由記述の意見をまとめました。

##### 《取り組み状況》

意見を参考に、幼稚園の環境や教育活動を振り返り、改善点を見出しました。諸行事・諸活動が概ね復活、再開したことで、子どもにとってもおうちの方にとっても幼稚園がより楽しい場になったと高評価をいただきました。しかしそれに伴い、情報量が増え、正確な情報が伝わりにくいというご回答をいただきました。今後は家庭とのよりスムーズな連絡の取り方を検討してまいります。

#### (2)

##### 《評価項目》

教員の自己評価（自己課題の設定と課題への自己評価）を実施。

##### 《取り組み状況》

子どもの安全を守ることを、園全体で緊張感を持って取り組みました。保育者が特定の子どもに関わる場合、他の子どもたちの満足感、安心感が確保できるように担任及びフリーの先生方で協力し合い必要な措置をとりました。その結果、子どもの成長を子どもと共に喜ぶ場面をたくさん共有できました。また、学年主任のリーダーシップをもとに、十分な話し合いの時間が確保ができ、行事などを通して職員間でのまとまりがより強くなりました。一人1台支給されたパソコンを利用し、日々の子どもたちの記録を小まめに残すことが出来、指導要録の記載に役立てることができました。